

勿凝学問 356

年金受給者団体への年金講座

2011年2月8日

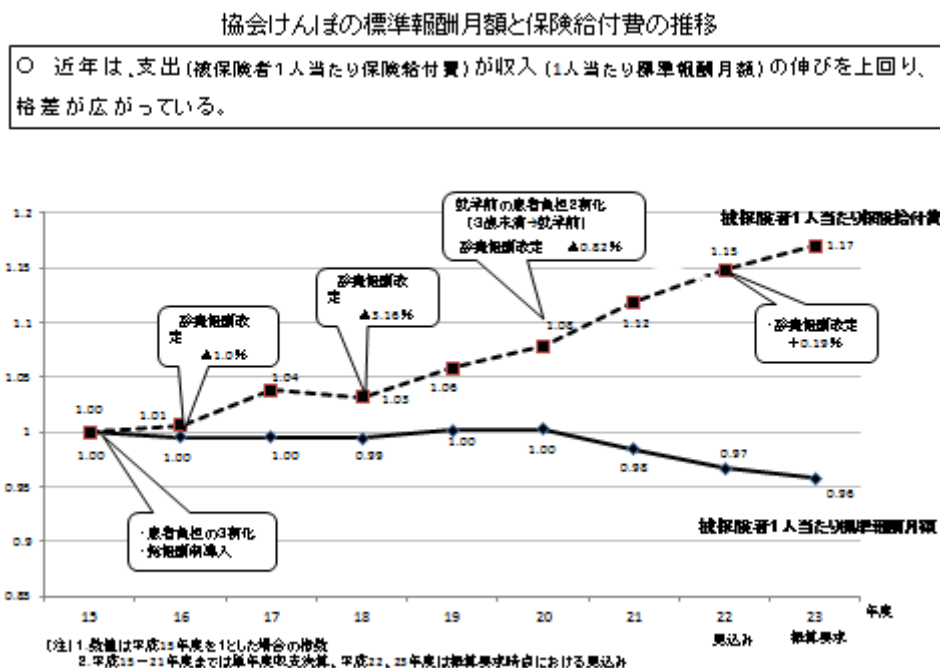
慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

ふとしたことで、年金受給者の集まりの中で、年金の話をするようになった。まあ、集まりの性質上、自民党時代に作られた年金に批判的で、自動的に給付をカットしていくマクロ経済スライドなんかもっての他という方針なんだろうし、ひょっとすると、「民主党の基本7原則に基づけば！」というような議論をしているのかもしれないと、僕は、(外れることを願いながらも) 推測しながらでかける。そして、話をはじめ。

まずは、年金とはまったく関係のない次の図、「協会けんぽの標準報酬月額と保険給付費の推移」を示し、現役世代の1人当たり標準報酬月額が低下しているがために、協会けんぽの保険料率が上昇している悲しい現実を説明する。

図 1

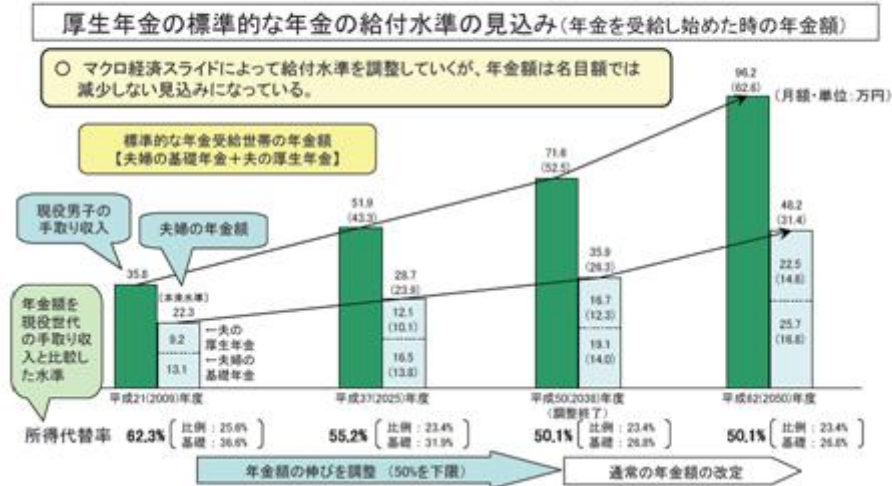


そして、2009年の財政検証結果の次の図を示し、現在、年金を受給しはじめる人の年金給付額の所得代替率が62.3%であることを、まあ、いろいろと時間をかけて所得代替率の意味も解説しながら、説明する。

図 2

平成21年財政検証結果

4. 基本ケース(出生中位、経済中位)の場合の試算結果



それから、2009年財政検証の時に準備された次の表を示す。1944年生まれの人受給開始時点での所得代替率は、2004年の財政再計算時には57.5%と試算されていたのに、それが、先ほど示した62.3%に上昇している。これはなぜだと思いますか？

図 3

平成21年財政検証結果

生年度別に見た年金受給後の年金額の見通し

生年度	平成16(2004)年における年齢	平成21(2009)年における年齢		厚生年金の標準的な年金額と同時点における現役男子の平均賃金(手取り)との比率		
				受給開始時点(65歳時点)	受給開始10年後(75歳時点)	受給開始20年後(85歳時点)
1944年生	60歳	65歳	平成16年財政再計算	57.5%	47.8%	41.8%
			平成21年財政検証(基本ケース)	62.3%	51.7%	43.2%
1954年生	50歳	55歳	平成16年財政再計算	51.6%	45.1%	40.5%
			平成21年財政検証(基本ケース)	56.9%	46.6%	40.1%
1964年生	40歳	45歳	平成16年財政再計算	50.2%	45.1%	40.5%
			平成21年財政検証(基本ケース)	54.0%	44.4%	40.1%
1974年生	30歳	35歳	平成16年財政再計算	50.2%	45.1%	40.5%
			平成21年財政検証(基本ケース)	50.1%	43.3%	40.1%

ここで、図1に戻り、現役世代の所得の低下の話をし、図2の中の「マクロ経済スライドによって給付水準を調整していくが、年金額は名目額では減少しない見込みになっている」という言葉の意味を解説していく。

このあたりで、みなさんの年金給付額は守られるのだけど、残念ながら、現役世代との比較で見れば、みんなの給付水準は相対的に高くなってしまっている今の制度、それでいいと思いますか？ わたくしは胸をはって人に説明できる制度ではないと思っています。みなさんは、どう思われますか？と問い、しばし、考えてもらう。

そして、2004年財政再計算報告書にある次の図の意味を説明して、本日ご出席のみなさんの年金給付額を、よりスピーディに減額していく改革の方向性に関して、仕方あるまいと納得してもらいながら、勢いよく説いていく。

その詳細は、次をご参照あれ。

勿凝学問 269 [デフレ宣言と年金](#)

図 4

マクロ経済スライド (平成16年財政再計算報告書)

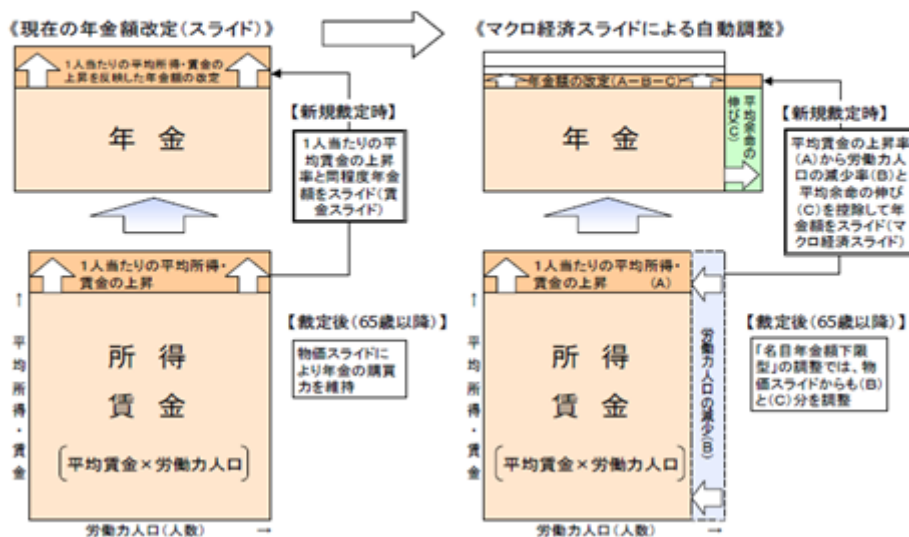
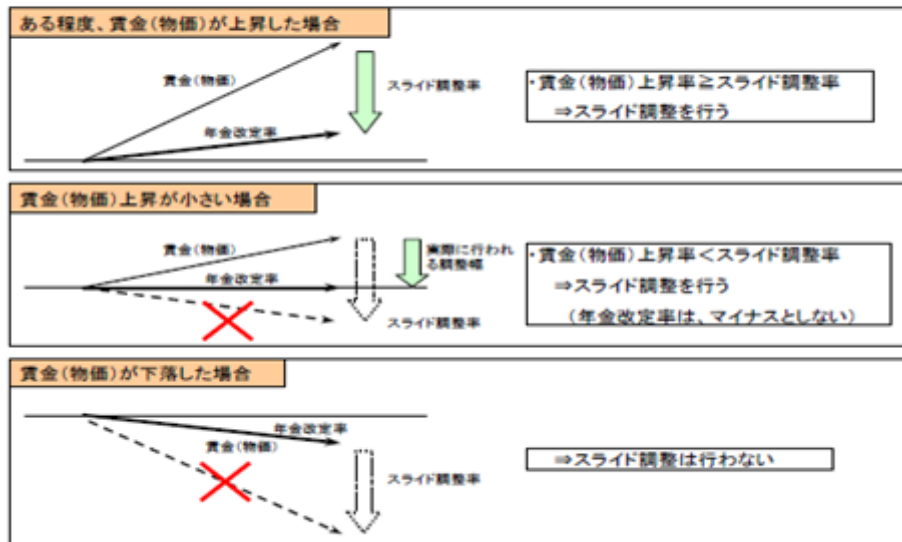


図 5

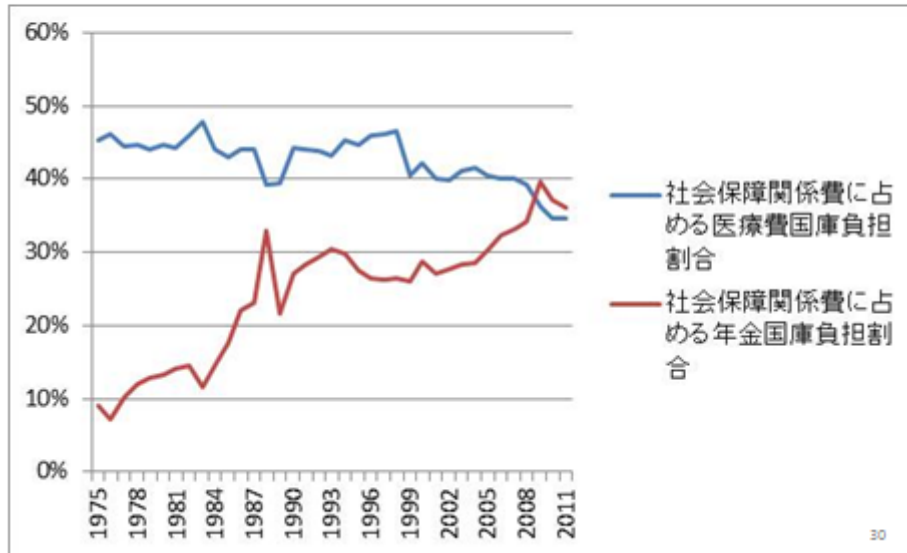
デフレ下のマクロ経済スライド



さらには、日本の国家財政が、いまどのような状況にあるのかを延々と 20 分近く説明する。その上、一般会計における社会保障関係費の中で、医療への国庫負担と年金への国庫負担を時系列で描いた次の図をみてもらい、基礎年金への国庫負担を、今の 2 分の 1 から 2 分の 2 に倍増するということの、意味は分かりますか？と問う。

図 6

社会保障関係費に占める 医療費国庫負担と年金国庫負担

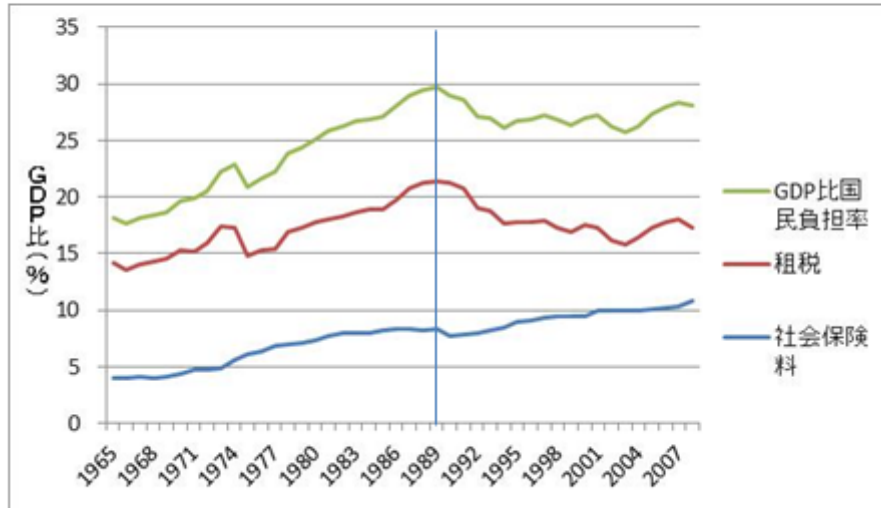


しばしば、基礎年金の財源を社会保険料から消費税に切り替えても、国民の負担は変わらないという、まあ、当たり前と言えば当たりの話をわざわざする人がいるのだけど、その時、事業主負担の減少分を、医療への国庫負担に回してくれるのでしょうかね。医療側からみれば、一般会計の社会保障関係費の中で医療費国庫負担と競合するライバル、年金国庫負担は、あまり大きくなってほしくないと思っています。

それに、次のふたつの図から判断すれば、この国では、社会保障の財源は、租税よりも社会保険料に頼っていた方が、確実に財源を確保できそうなんですよね。

図 7

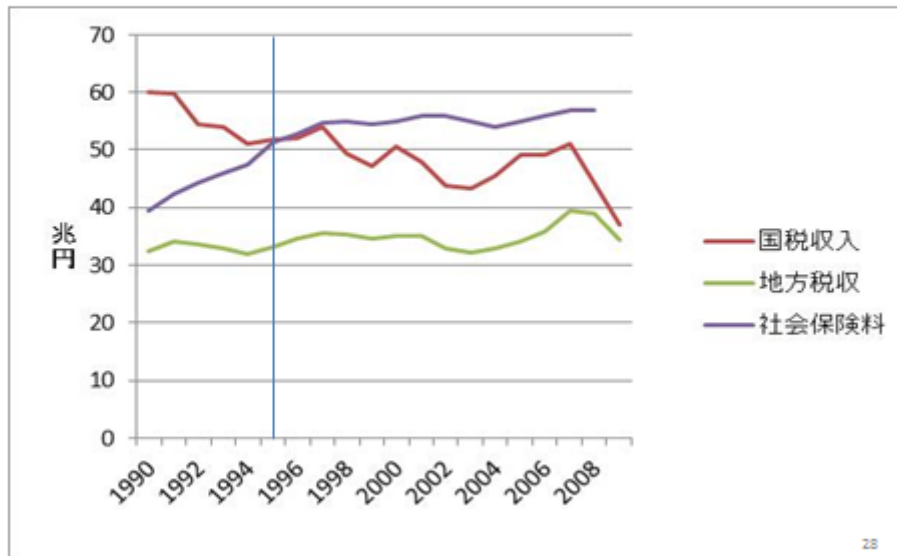
税と社会保険料の財源調達力 バブル崩壊以降、社会保険料が支える



27

図 8

税と社会保険料の財源調達力 1995年に社会保険料収入が国税収入を上回る

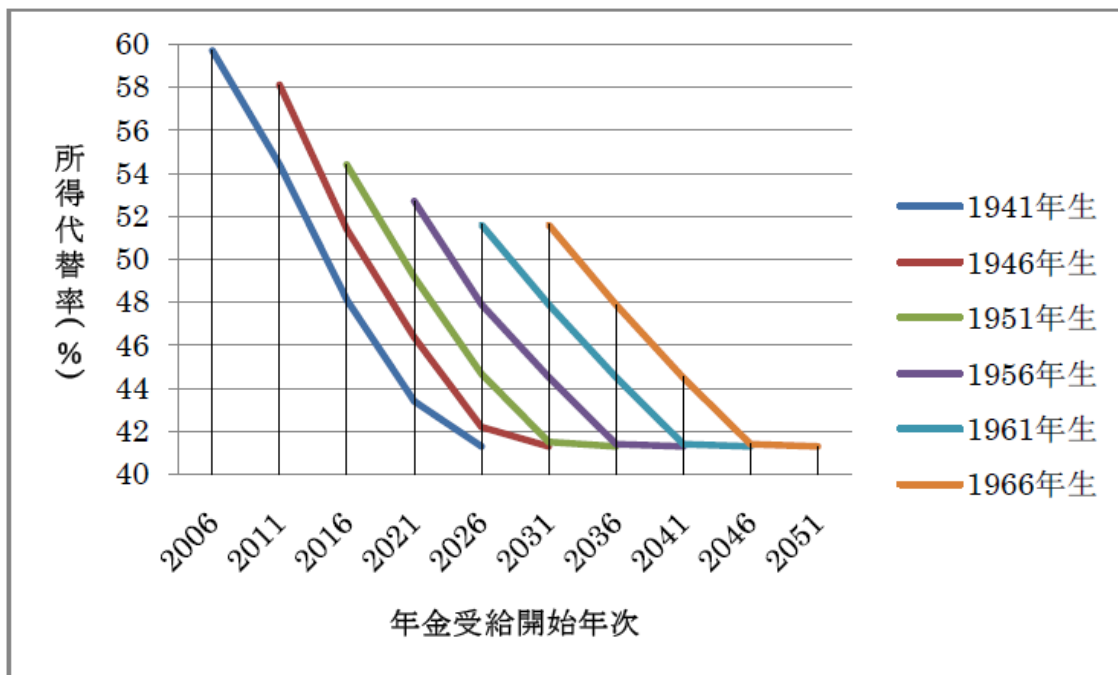


28

さて、こういう話を一通りしたら、本稿の冒頭に述べた、「自民党時代に作られた年金に批判的で、自動的に給付をカットしていく、マクロ経済スライドなんかもっての他」、だから民主党のいう年金の抜本改革が必要！という雰囲気は消えしまって穏やかな雰囲気にな

り、その先は、今の年金をどのように改革するべきかという僕の話、ウン、そうだろうという感じで、きいてくれる環境が生まれたわけである。世の中、聞く耳を持ってもらうまでが、なかなか大変なんだよな。

ちなみに、既裁定年金の給付水準は、世代間で次の水準になるように制度設計されています。



注) 平成 19 年 4 月 26 日年金部会配付資料

厚生年金の標準的な年金額 (夫婦二人の基礎年金を含む) の見通し

【生年度別、65歳時点】より筆者作成

このあたりは、つまり、85歳くらいまで生きていれば、団塊の世代も、我々の世代も、そして今二十歳くらいの世代も、みんな同じ水準になってしまうということは、結構、みんなが知らないところで、すでに年金をも受給している人やもうすぐ受給しはじめる人が、これを知ったら、結構、ショックを受ける図のようではある。

お手すきの時にでも、次でもご参照あれ。

勿凝学問 209 [逃げ切れると思っている団塊世代のちょっとした勘違い](#)